

高校生のSNS利用における 迷惑行為の被害・加害経験

東京学芸大学 渡邊正樹

本資料は、東京学芸大学大学院修了生尾形藍による平成27年度修士学位論文「高校生のSNS利用における迷惑行為の被害・加害経験とリスク認知」からの抜粋である。

■ 研究目的

高校生を対象とし、SNS利用上の迷惑行為の被害・加害経験とリスク認知、対処行動等について調査し、それらの関係を明らかにする。

迷惑行為: 法律やモラルに反し、SNS利用者の不安を煽る行為

■ 研究方法

web調査により、国内在住の高等学校に在籍する全国の高校1年生から3年生までの計500名(男女ともに250名)を対象に、質問紙調査を実施した。調査時期は平成27年2月である。

主な結果

■ SNS利用経験

「現在利用している」 446名 (89.2%)

「利用していたが、今は辞めた」16名 (3.2%)

「利用したことがない」 38名 (7.6%)

■ SNS利用時間

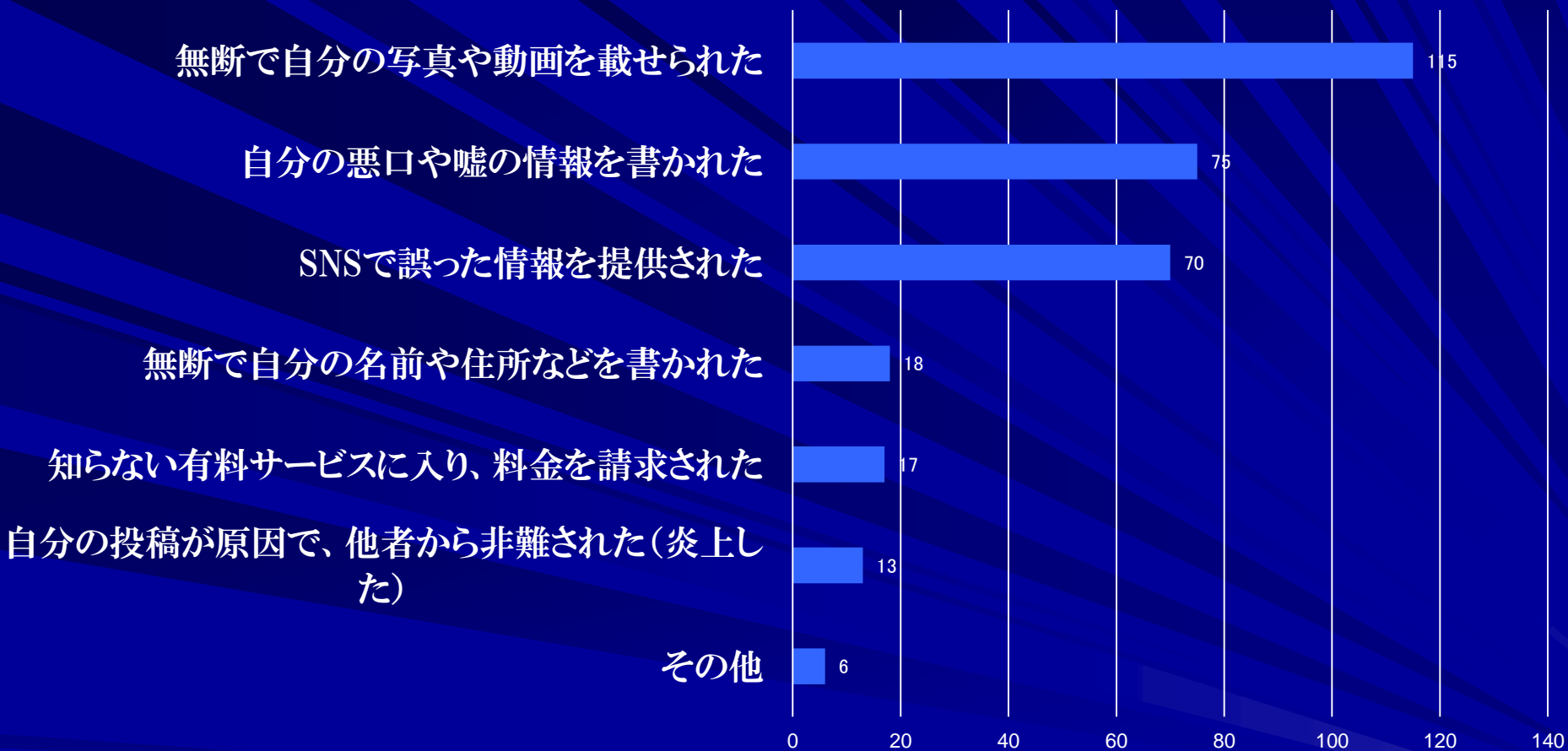
「1時間未満」(30.5%)

「1時間以上2時間未満」(30.9%)

「2時間以上3時間未満」(13.8%)

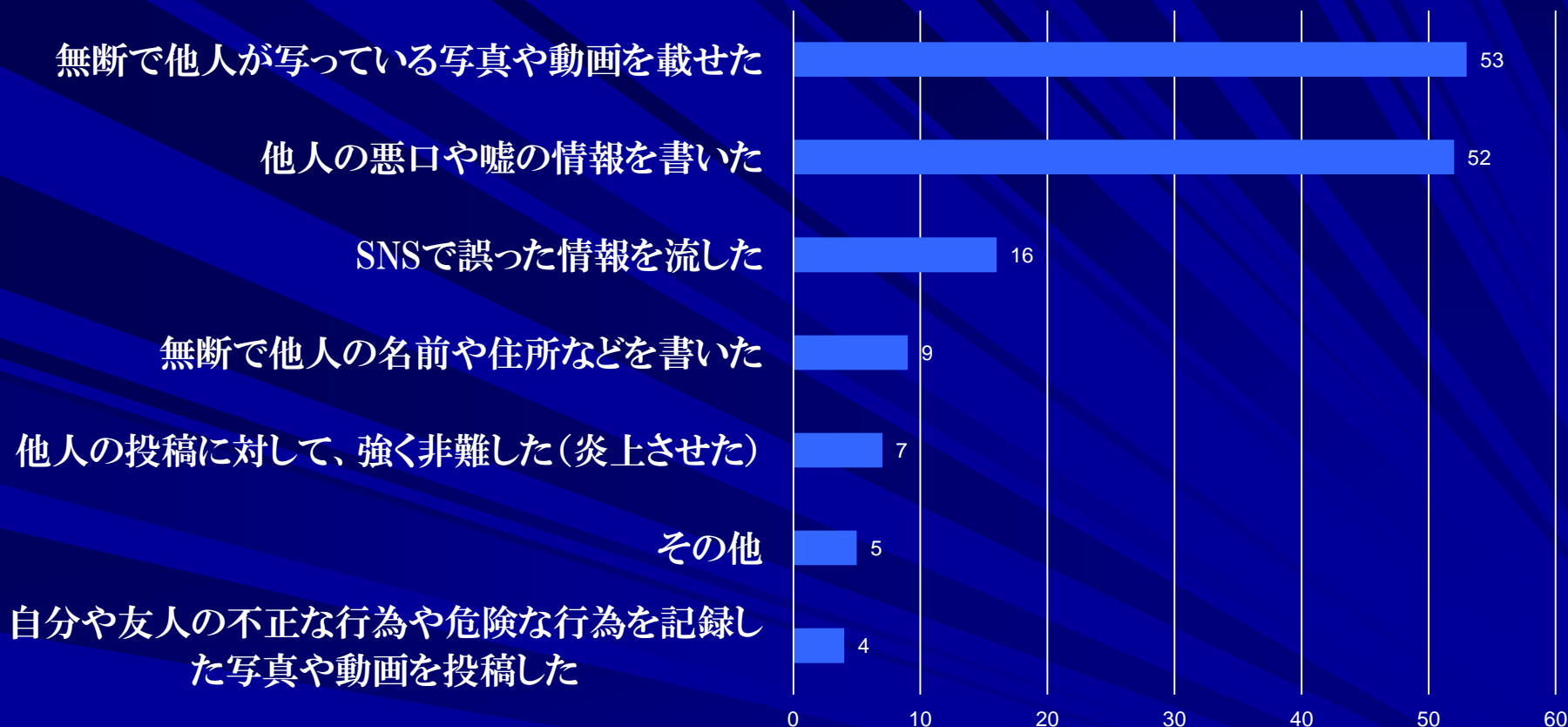
「3時間以上」(24.6%)

表2 SNS被害経験(複数回答可)



SNS利用経験のある者(N=462)の中で、「迷惑行為の被害経験あり」は205名(44.4%)であった。

表3 SNS加害経験(複数回答可)(N=462)



SNS利用経験のある者(N=462)の中で、「迷惑行為の加害経験あり」は113名(24.5%)であった。

迷惑行為のリスク認知

とても危険＋やや危険

	回答数(n=500)	%
Q912 キャラクターの写真などを投稿	179	35.8
Q91 写真や動画を投稿	262	52.4
Q99 直接交流のない人と友達になる	282	56.4
Q910 知らない人からのメールに返信	318	63.6
Q914 不確かな情報を投稿	340	68.0
Q919 投稿されているURLのページを開く	344	68.8
Q916 どんな内容のものでも拡散(投稿)する	352	70.4
Q94 企業などを非難する内容の投稿	356	71.2
Q911 知り合った人と直接会う	361	72.2
Q917 使い方を詳しく知らずに利用する	363	72.6
Q918 アプリを、使い方など詳しく知らずに利用	366	73.2
Q913 社会全体が不安に陥るような投稿	369	73.8
Q97 相手に写真や動画を投稿するよう強要	373	74.6
Q915 掲載されている情報は、そのまま信じる	377	75.4
Q95 第三者が写っている写真や動画を投稿	389	77.8
Q96 第三者が不快だと感じる内容を投稿	399	79.8
Q93 特定の人を非難する内容の投稿	403	80.6
Q98 不正行為や危険行為を投稿	415	83.0
Q920 SNSの管理者には、IDやパスワードを教える	428	85.6
Q92 住所や電話番号などの情報を投稿	430	86.0

迷惑行為の被害経験，加害経験， リスク認知等の相関 (Spearmanの相関係数)

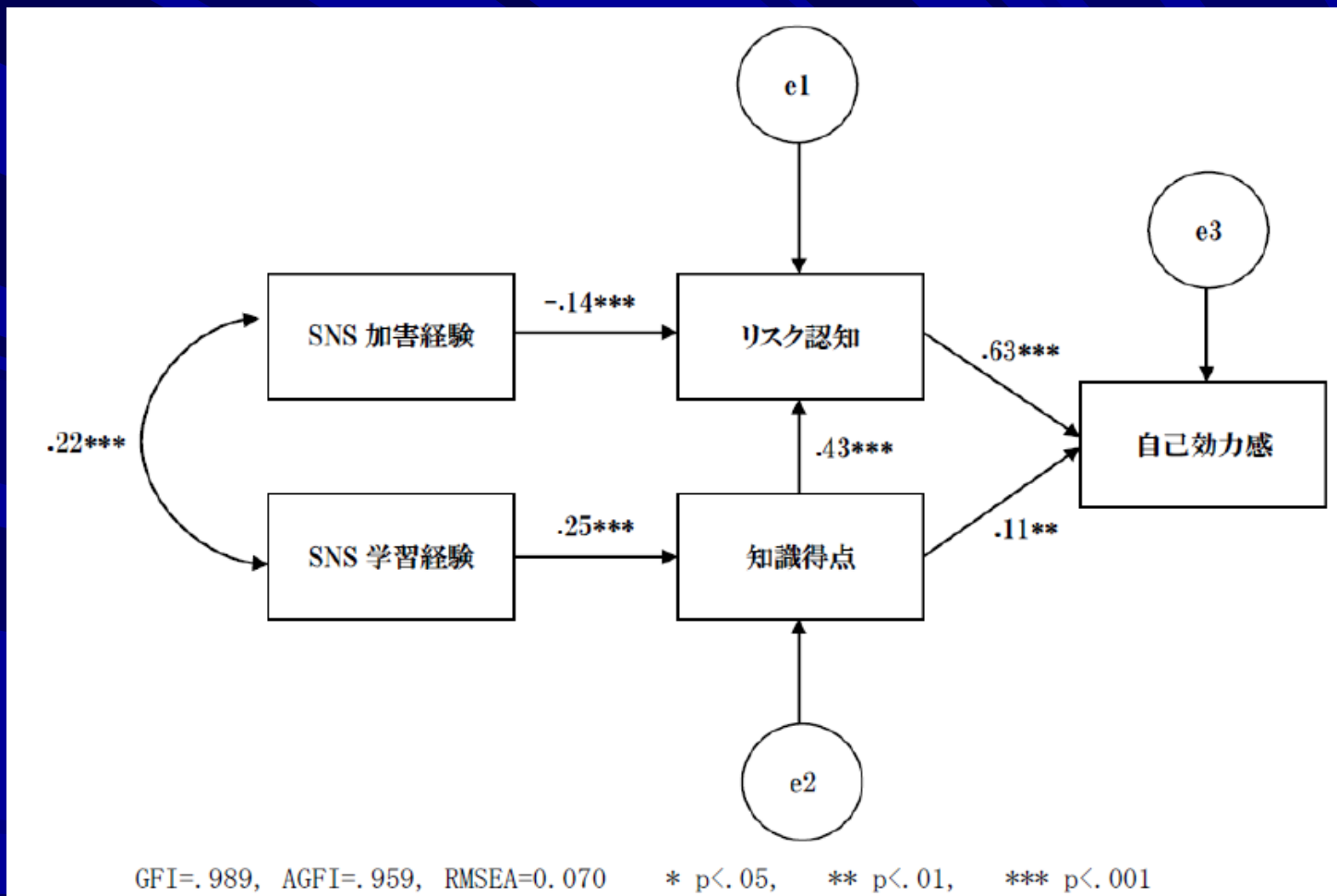
	SNS被害経験	SNS加害経験	SNS学習経験	知識得点	リスク認知	自己効力感
SNS被害経験		.41**	.15*	.03	-.08	-.13
SNS加害経験	.30**		.22**	-.11	-.19**	-.24**
SNS学習経験	.16*	.09		.20**	.11	.18**
知識得点	.21**	.04	.12		.42**	.39**
リスク認知	.10	-.17**	.20**	.44**		.67**
自己効力感	-.06	-.17**	.14*	.33**	.70**	

右上：男性 左下：女性 * p<.05 ** p<.01 *** p<.001

加害経験がある者はリスク認知が低い傾向がみられたが，被害経験とリスク認知には関連がみられなかった。

→ 被害経験でリスク認知は高まらない。

各変数のパス解析



学習経験がリスク認知を高め、その結果、安全なSNS利用における自己効力感を高めることが期待される。